

## 南部球友クラブ チーム紹介

(平成 30 年 2 月 1 日現在)

設	立	平成 5 年(1993 年)4 月
顧	問	中沢正志 (創設功労者、初代事務局長)
役	員	会長; 佐々木久明 副会長; 峯村好郎、中山典美 事務局; 小幡法弘
後	援	会 長 伊藤治通 (元長野市議会議員、議長)
歴	代	監 督 初 代 藤沢 宏 (平成 5 年 4 月～平成 6 年 7 月) 二 代 加藤桂二 (平成 6 年 8 月～現在)
	住	所 長野市若里 6-4-16 TEL 026-267-6363 携帯 090-1036-3109
	勤	務先; NTT 東日本 TEL 0120-910-586 FAX 026-225-3080
コ	ー	チ 中山典美・小林洋・小幡法弘・大蔵誠・小島登 (技術指導)小坂徹也
保	護	者 会 長 平成 29 年 8 月～平成 30 年 7 月 横田 茂大
事	務	局 住所 長野市稲里町中央 1 丁目 4-22 携帯 小幡法弘; 090-8841-1018
チ	ー	ム 目 的 軟式野球を通じて健全な身体と精神を育むことを目的とします。
ス	ロ	ー ガ ン <b>*全力投球・フルスイング・全力疾走*</b> このスローガンは、加藤桂二監督 (以下、監督) が就任当時に掲げたものである。スローガンの目的は中 学校野球を継続し、高校・大学・社会人・プロ野球へと夢・希望を持続し目標を持って野球を継続する選手、 また中学で野球を終わる選手と様々であるが、野球の基本である「 <b>走・攻・守</b> 」を全力でプレーする事を「 <b>体</b> 」 で体験する事にある。選手は試合で、緊張の中一球に集中し、良い結果を出そうとする。しかし、野球はミ スがつき物のスポーツだ。全力で必死に取り組んだ結果、失敗しても指導者・選手仲間は責めることは出来 ない。失敗し改善し一生懸命練習して仲間の信頼を得る時、必ず良い結果が出るはずである。何事にも全力 でプレーする事が、一番重要な事である。
今	年	の モ ッ ト ー 「千射万箭」せんしゃばんせん (新チーム選手が考え、決めた行動目標) 『千本万本矢を射るときも、すべて新たな気持ちで射よ』 1 つ 1 つ を ない が し ろ に し ない。すべてのことに意味がある。と言う意味です。
監	督	の 指 導 方 針 スローガンの徹底と南部球友クラブ野球教本 § 2. 全員編の履行 (別紙参照)
設	立	経 緯 長野市街地南部地域は、育成会を中心とする少年野球が盛んな地域である。しかし、この子供達の通学校 櫻ヶ岡中学校に部活として野球部が無く、地域の生徒は野球を継続するには硬式野球選択のみであった。 そこで、当時の保護者が中心になって中学校の部活に代わる野球クラブを立ち上げ、保護者が指導する選手 3 学年総勢 22 人の手作りチームがスタートした。
チ	ー	ム の 特 徴 南部地区の通学校である櫻ヶ岡中学校の生徒を中心に、現在は市内の長野附属中学校、長野日大中学校、 柳町中学校他部活動がある中学生も含む、複数中学の集まるクラブチーム。練習日は、土曜日・日曜日・祝 祭日。
主	な	成 績 平成 5 年 5 月 5 日 公式戦初試合 対犀陵中学校 3-22 敗戦 平成 6 年 7 月 第 24 回中部日本地区選抜中学大会県代表決定大会出場 平成 6 年 8 月 長野市少年野球大会中学生の部 初優勝 (以後優勝 12 回) 平成 12 年 7 月 第 17 回全日本少年軟式野球大会 北信越大会準優勝 (この時のバッテリーを含む 6 名が 長野工業高校に進学し、第 85 回全国高校野球選手権大会甲子園出場) 優勝大会 (長野市長杯、カルチェ杯、信州少年軟式野球大会、信州カップ、須高大会、けんせつ杯 他)
そ	の	他 入会費 3,000 円 年会費 12,000 円 以上